

# 第15回 日本語スピーチ大会 2019

場所：かながわ県民センター 301号室

開催日：2019年11月4日（月）

## スピーチ草稿集



氏名	テーマ	出身国	所属
チン タン ルアン	同胞精神	ベトナム	横浜国立大学
李 旭瑶 (リ キョクヨ)	留学して確信したこと	中国	横浜国立大学
于 宏宇 (ウ コウウ)	日本の職場のグローバル化に向けて	中国	神奈川大学
アブダラ シャアバン ヤスミン	日本に来て感動したこと	ブラジル	横浜国立大学
邢 超群 (ケイ チョウグン)	日本で経験したこと	中国	横浜国立大学
マハシュ コドート	自己紹介とインド	インド	横浜国立大学

■講評 山田光義氏（RKK顧問 元横浜国立大学教授）

**NPO法人 留学生と語り合う会（RKK）**



## 同 胞 精 神

チン タン ルアン  
Trinh Thanh Luan (ベトナム出身) 横浜国立大学



皆さん、おはようございます。

ベトナムから参りましたチン タン ルアンと申します。横浜国立大学で電子情報システムを専攻している1年生です。

スピーチの初めに私の両親のことを話したいと思います。私の母は料理が得意ではありませんが、普通の料理はできますが、しかし、父はよくこう言います。「ルアン、お母さんの料理をあまりたくさん食べないで。お腹が痛くなるよ。お母さんに皿を洗わせないで、全部壊れてしまうよ」。そのために父が家にいたら、料理は父で、皿洗いは私です。はじめは父がなぜそう言ったかはわかりませんでした。しかし、一人暮らしの生活で家事の辛さを経験し、父が母を手伝いたいということがわかりました。

人生で、このように長い時間をかけないとわからないこと、新しい所で新しい生活を始めて、わかるようになることが沢山あると思います。

今日、皆さんと話したい同胞精神のこともそうです。日本に留学しなければ、多分、私は同胞精神の意味や価値がわからなかったと思います。日本での二つの経験を話したいと思います。

まず、日本での初めてのお正月についてのことです。私は東京のある日本人のドミトリーに住んでいました。日本人の友達に年賀状、門松、除夜の鐘など、日本のお正月の催しについてよく話しました。その時、私の頭の中にベトナムのお正月の催しが浮かんで、何故かわかりませんが、ベトナム人と話したくなりました。その後、あるベトナム人の新年会に参加しました。その新年会で皆と一緒にベトナムのお正月の料理を食べて、ベトナムのお正月の伝統的な催しをして、とても楽しかったです。お互いに知り合いではありませんが、皆は他人を自分の親戚のように思いました。理由は単に相手もベトナム人であることと思います。その時、「同胞」という言葉の意味について、十分に理解していないとわかりました。

次に、大学受験について話したいと思います。名古屋のある大学の受験で不明な点があって、その大学に在籍しているベトナム人の先輩にメールしました。その先輩の返事に本当に驚きました。メールで受験についての説明とともに「泊まる所はありますか。なければ、私たちの部屋に泊まってもいいよ、遠慮しないで。」と書かれていました。しかし、もっと驚いたのは受験の2日間です。その大学に受験したベトナム人は私を含めて6人がいました。試験の前の日に、先輩は私たち受験生6人を歓迎し、試験の注意事項、試験場の案内、入学後の部屋探しを手伝ってくれると言ってくれました。

私たちは先輩たちに知り合いではないのに、なぜこんなにサポートしてくれるのか私は分からず、大変驚きました。帰る前に先輩に聞きました。「君は僕たちの同胞だ」とその先輩がすぐ答えました。「日本には多くの国の留学生がおり、彼らに比べて自分たちが努力しなければならないこともあります。同胞精神だったら、僕たちは強い自信っています。日本でのベトナム人のコミュニティが強くなるために君も力を貸してね。」とその先輩が言いました。

ベトナムでは、ある女神が100個の卵を産み、その100個の卵からベトナム人の祖先が生まれたので、出身や民族に関わらず、すべてのベトナム人は親戚であるという伝説があります。ベトナムにいた時、この伝説と「同胞」という言葉の意味について、考えておりませんでした。日本での生活で次第にわかるようになりました。今、私の頑張っている努力は自分や家族のためだけでなく、国のためでもあります。私にとって、この事が日本に来て一番変わった考え方であり、私を一番幸せにするものだと思います。

人によって、国や国の人々は違う存在・違う意味を持っています。その存在や意味を明確にすることは非常に重要だと思います。今までの経験を通じて、私はこの事について考えるようになりました。皆さんはどのように考えられますでしょうか。

## 「留学して、確信したこと」

李旭瑤（リ キョクヨ）中国出身 横浜国立大学



“なぜ、留学したいのですか？”

来日して2年目の現在でも、時々周りの人からこういう質問があります。最初の時、自分の答えは“外の世界を見たいでした”。この答えの出発点は外の世界に対する好奇心です。もちろん、これは間違い無いですが、2年の時間が経って、現在の自分から見ると答えはどうですか、一応考えました。

留学する前、自分は小学校から大学までずっと地元の学校に通っていた。大学卒業した後でも公務員として地元で働いていました。公務員としての生活は、結構安定な毎日を過ごしている。親とか親戚から見ると、女の子にとってこれは一番適切な仕事である。

公務員としての自分、未来に対してどのようなことをやりたいのか？どのような人になりたいのか？あまりうまく言えませんでした。その時は、安定した仕事は正しいことかなと考えていました。でも、外の世界はなんですか、自分はこの一生ずっとここでいたいのか、こういった疑問がよく頭の中に浮かんでいました。そして、周りの人からの影響も含めて、留学することを決意しました。三ヶ月の時間で、インターネットに載せた日本語講座を聞いて日本語を勉強して、N2日本語能力試験を受けました。今の教授にメールを送り、こういった流れで日本にきました。あの時自分が留学を決意した一番大きい原因は毎日繰り返す生活を避けたいといっても過言ではありません。

留学して二年間、辛いことや難しいことなど、もちろんいっぱいありました。この中で一番辛いことは、自分との付き合い、自分の心に従うことでした。以前の自分が、よく考えるのは、自分の方面から他人との付き合いに、どうやって人間関係をうまく構築していくのか。でも、自分と自分の付き合いということはしっかり考えたことはありませんでした。留学を通じて、一人での時間が以前よりだいぶ多くなりました。生活、研究方面から様々な問題は自分で解決しなければなりません。最初の時、多くの場合は寂しいとか苦しいと感じた。そして、自分に対して自信がたりない。でも、この苦しさのおかげで自分がよく反省しました。なぜ、自分に対してそんなに厳しいのですか、まだ始まってないことに対してネガティブになるのですか。その原因を見つける解決方法を探しました。人間は、楽しい時、悲しい時もある。悲しいことは必ずしも悪いことではない。そのため、自分が悲しい時、よく自分と自分を会話して、楽しかった思い出とか、問題の検討とか、様々の方面から、自分と交流する。その結果、現在の自分は以前より、一人でいたい気持ちをもっと強くなり、人との付き合いは嫌いではないが、自分と付き合う時間をもっと重視しました。

留学を通じて、様々な方面の成長がありました。以前、ある文章の中で、この言葉が心の中で響きました、“君の人生の選択は、この世界との縁です”。そして、今、“なぜ、留学したいのですか？”と自分に聞きました。答えは、自分を探したい、自分なりの可能性を見たいという自分の心に従いたいと確信しました。

## 日本の企業のグローバル化した職場に向けて

于<sup>ウ</sup> 宏宇<sup>コウウ</sup>（中国出身）神奈川大学



2014年4月から、私が神大の経営学部に進学したことで、平塚の住民となった。これまでのことを振り返ってみると、店で働いている外国人スタッフが年々と増加していると実感した。2014年のとき、駅周辺のコンビニではまだ外国籍のスタッフがまだ1人、2人程度しかいなかった。5年を経た今日では、半分以上は外国籍のスタッフになった。日本人スタッフがどこいるかどうかは探す必要があるだろう。それでは、本日の場を借りて日本の企業のグローバル化した職場についてお話し

たいと思う。

1. 現在、約270万人の外国人が総人口1億2千強の日本で生活し、日本総人口の約2%に当たる。また、今年度の厚生労働省の調査によれば、現在日本で働く外国人は146万人だと報道された。過去最高の記録更新である。この146万人という人数を聞くと、かなり多いと思われるかもしれない。もし、5年前の2015年の91万人と比べると、1.6倍の増加率でかなり増えていると感じられるのではないだろうか。このように、今後高度人材制度、研修生制度の見直しに連れて、来日する外国人従業員が今後さらに増加し続けると見込められる。

では、こんなに多くの外国人従業員を受け入れた日本の職場では、どのような変化がもたされただろう。日本の職場のグローバル化は順調に進んでいると考えられる。しかし残念ながら、日本の職場のグローバル化は全体的に進んでいないのが現実である。

2. そこで、私は日本の職場のグローバル化が日本人と外国人の働く意識に大きな関係があるのではないかと考えた。そして学部時代のゼミメンバーと一緒に外国人従業員の中でも最も人数の多い中国に行って働く意識についての国際比較調査を実施した。その結果、日本人と中国人の働く意識はほぼ一緒だとわかった。しかし、それがどこかが怪しいのではないかと思った。働く意識はほぼ一緒なのに、なぜ職場のグローバル化がなかなか進まないだろう。そこで調査結果を改めて見直したところ、それは日本企業のグローバル化の定義と関係あると思った。
3. 皆さんはどのような職場だったら、グローバル化した職場であろう。答えがない。企業によって、外国人従業員を受け入れる目的が異なるからである。ですから現状では、外国人を受け入れられれば、自動的に企業のグローバル化が進むと考えている企業が多いのである。このように外国人従業員まで自分が採用されたこそ、グローバル化の担い手になると誤解を招いたところ、日本の職場のグローバル化は他の国より遅れてしまうのではないだろうか。
4. ここでは、私があえて自分なりのグローバル化した職場の構築に寄与するための考えを皆さんとシェアしたいと思う。外国人従業員に日本の文化などを理解してもらうことによってグローバル化した職場に寄与できるのではないかと考えている。その理由は、日本企業におけるグローバル化した職場の定義は日本の企業文化の1つと考えられるからである。日本企業の企業文化は、日本社会、日本人の価値観に基づいて形成されるものである。ですから、外国人従業員にとってその価値観を十分に理解できない部分もある。そこで日本の文化に育てられた内部者の皆さんは、彼ら・彼女らが日本の文化に馴染んでいくための役割を果たすことが期待される。

さて、その担い手になるのは誰であろうか。私は、今ここに座っている皆さんが担うことができるかもしれないと考える。そして皆さんが実際にやっていることであると考え。今この話を聞くと、皆さんは自分が彼・彼女らの職場と直接に関わっていない、なぜ自分なのかと思うかもしれない。その理由は、皆さんの日々の活動を通して、外国人により多くの日本の文化を知ってもらうことができるからである。

このように、皆さんの活動を通してその可能性を軽減できてグローバル化した職場に寄与できるかもしれない。それでこそ、今までになかった新たな価値が創造されるグローバル化した職場と言えるのである。

5. 当然として、グローバル化した職場の環境は一朝一夕に構築できるものではない。外国人従業員の人数の増加を巡って様々な摩擦、課題が新たに生まれてしまうとも考えられるが、常に前向きな姿勢を持って取り組んでいくと課題の解決にたどり着くことができると信じる。今日の話を通して皆さんに職場のグローバル化について改めて考えてもらえればと思う。そして少しでもお役に立てれば、それ以上の嬉しいことはない。

長い話に最後までご静聴していただき、感謝のお礼を申し上げる。

## テーマ忘れられない瞬間

アブダラ・シャアバン・ヤスミン（ブラジル出身）  
横浜国立大学



私が日本に来て感動したことをお話しします。その前に日本に来たきっかけを話しします。

日本語の勉強を独学で始めて、今年で6年になります。そのきっかけは「犬夜叉」という「高橋留美子」のアニメーションでした。私が11歳のとき、毎日それを見て、日本の歴史や伝統文化や神話について習い勉強しました。

多くの場合、犬夜叉の冒険や戦いは不思議で神聖な山で行われました。私はこれらの風景を決して忘れな

いと思います。

それから、私が日本に来たのは、アニメに出てくる風景や古代人の魂を感じたかったからです。

ブラジルの留学生の伝統として、毎年夏休みに富士登山をするイベントがあります。そのため、今年の8月17日、午後6時に富士山スバルライン五合目で、ブラジルの大学生13人と会いました。その後、すぐにわたしたちは富士山に登り始めました。

暗闇の中に天空より降り注ぐ月の光は、とても美しく感動しました。登ることはあまりたいへんではなかったです。しかし、山頂に行った時はとても寒くて風も強くつらかったです。

3時間半待った時に太陽が顔を出しました。ご来光です。目の前に広がる雲海の中から出てくる太陽があたりを真っ赤に染めていました。

それを見て心が温かくなり感動しました。ご来光を見たことが日本に来て一番感動したことです。

## 日本で経験したこと

邢超群（ケイ チョウグン）中国出身 横浜国立大学



皆さま こんにちは。私は中国からの留学生邢超群と申します。はじめましてよろしくお願いいたします。ご出席していただいた皆様に心から感謝いたします。

私は去年の10月に日本へ留学にきました。大学の専攻は日本語でずっと日本に行きたいと思っていました。2016年の夏休み、機会があつて母と一緒に日本へ旅行に来ることができました。短い一週間の旅行でしたが、私の心に深い印象を残しました。そのあと日本へ留学したい気持ちが強くなりました。それで大学を卒業した後、日本へ来る

ことにしました。当時の私は日本語が下手で、そして初めて日本人と交流するので、心臓がドキドキして、簡単な「ありがとうございます」もすぐには話せませんでした。日本語科の学生として私は恥ずかしいと感じました。両親と離れて一人で全然知らない環境で生活することも初めてです。友達もいないし、言葉もよく話せません。最初のころは寂しく、悲しく過ごしました。

偶然に横浜中国留学生の学友会で布津先生とお会いしてRKKのポスターをいただきました。私の日本語がうまくないので、先生は簡単な言葉で私に説明してくださって、RKKのことを大体理解できました。RKKは各国の留学生に無料で日本語の授業をする組織です。そこから私のRKKの一員として勉強と生活が始まりました。

布津先生からのご紹介で今は諸岡先生の元で勉強しています。先生は言葉だけでなく日本の文化、歴史、音楽、新聞などいろいろな方面の知識を教えてくださいます。私の日本語は最初の「ありがとうございます」も自然に話せない程度から、今は日常会話がよくできるようになりました。これは全て先生とRKKのおかげです。その一方で私の心も変わりました。日本人との交流も怖くなくなり、日本人の先生からの心の暖かさを感じます。今の私はもう寂しくないんです。RKKは私にとって日本に来て初めての家のような存在です。留学生の私たちをずっと支えて助けてくださる先生方、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。RKKのよりよい未来を心からお祈り申し上げます。

## 自己紹介とインドについて

### マヘシュ・コドート(インド出身)横浜国立大学



はじめまして、私はマヘシュ・コドートです。南インドから来ました。31歳です。私の趣味はインドとイギリスの映画を観ることです。インドの大学でケミカル工学を勉強しました。卒業してから、イギリスの大学で安全工学を勉強しました。日本に来る前はインドとスコットランドで働いていました。その後、スコットランドのエンジニアリング会社で四年間ぐらい働いていました。日本の文部科学省の推薦で2年前に日本に来ました。今は横浜国立大学の研究員です。安全工学を勉強しています。来年の3月に博士課程を修了してからは日本の会社で働きたいと思います。今は大学で日本語も勉強しています。これからも頑張りたいです。日本の料理とお寺が好きです。一番好きな場所は鎌倉です。

私は南インドのケララ州にあるコーチ出身です。日本の成田空港から、飛行機で行くことができます。コーチはケララ州の中で一番大きいまちです。人口は2百万人です。私の故郷には色々な宗教の人々がいます。コーチの人は親切です。歴史が長くて食べものもおいしいです。静かなところです。コーチの気温はいつも高いです。毎年、強いモンスーンが来ます。時々、洪水もあります。コーチでは色々な食べものも、とてもきれいな観光スポットも楽しめます。特にボートレースを見るのがおすすめです。象に乗ったり、野生動物を見たり、茶畑に行ったりしたいと思いませんか？

コーチを訪問するのに最もよい季節は9月から3月までだと思います。多くの人はコーチについてあまり知らないと思いますが、とてもおもしろいまちなので、皆さんにおすすめします。よろしければ、みなさん、来てください。

日本に<sup>き</sup>来た時、びっくりしたことは新幹線です。新幹線はとても早くて<sup>べんり</sup>便利です。新幹線は日本で最初に造られました。日本の新幹線は世界中で<sup>せかいじゆう</sup>人気がある速い電車です。新幹線は、五つの日本の電車のグループ会社によって<sup>うんえい</sup>運営されています。新幹線はとても安全で広いネットワークがあります。このように新幹線は<sup>べんり</sup>便利ですが<sup>ねだん</sup>値段が高いです。

日本の季節の中で春が大好きです。春の季節に、私たちは花見に行きました。

聞いてくださって、ありがとうございました。

## 講 評

山田光義氏（RKK 顧問、元横浜国立大学教授）



今年も RKK の講評をやらせて頂きまして喜んでおります。留学生の皆さんの真剣な話を聞くということは嬉しいことです。皆さんが日頃忙しいなかで年に一度の RKK の知的な催しであるスピーチ大会に参加して下さることに感謝しています。チューターの方々の日頃の指導についての報告があったのもよかったです。RKK 会員のみなさんの留学生に対する献身的なサポートが見えて、留学生の皆さんもより一層円滑に日本で生活が送れるのではないかと思います。

それでは各論に入って、恒例の一人一人のスピーチについて、私の感想を述べたいと思います。

チン タン ルアンさんは横浜国立大学の under graduate 工学部の 1 年に入ったばかりで、これから多年にわたって日本に滞在して、大学での実りある成果をあげて頂きたいと思っております。ほかのスピーカーの方は全部大学院の学生ですが、ルアンさんだけが学部生です。留学生はどちらかと言えば大学院レベルの人が増える傾向にあります。学部レベルのところまでは国で勉強してもいいじゃないか、更にそれよりも上の専門を日本でやるという流れがありますが、勿論学部の若い段階から日本に来て勉強するというのもいいことです。

ルアンさんのスピーチは堂々としていて立派でした。「同胞精神」という非常に硬い四字熟語の演題でどんなお話しを展開するのかなと思ったのですが、同国人である先輩に恵まれて、非常に幸運であったという内容でした。

神話に遡った説明がありましたけれども、全てのベトナム人は親戚のようなものだというお話がありまして、これについてはその後で中国人の于 宏宇さんが中国人はそれを非常に羨ましく思うというような話がありました。チン タン ルアンさん、温かい同胞の人にかこまれて留学生生活の成果を上げて下さるよ

うにお願いいたします。

2番目の李 旭瑶さんは大学での予定とかち合ったためにこちらのスピーチ大会は欠席ということだったのですが、勿論大学における勉強ということが一番大切なのでそれを優先するということは尤もなことであって、残念ではあるけれどもやむを得ないことだと思います。今日はチューターの山本さんが代読して下さいましたが、それにつけても李 旭瑶さんは非常にいいチューターに恵まれたと思います。留学の目的、理由を書いておられましたけれども、要するに外の世界を見てみたいということでした。地元で公務員として非常に安定した生活をしていたのに、それを捨てて日本にやってきた。安定した生活を捨てて敢えて冒険的な新しい可能性にチャレンジしてみようというこの覇気と言いますか、これを非常に尊いものだと思うのです。そして、李 旭瑶さんは日本に留学することによって自分との戦いの繰り返し、自分を見つめる生活をしてゆきたい、こういう話がありまして、これは留学したことのひとつの大きな副産物として自己を高めるということに繋がってゆくのではないかと考えました。

于 宏宇さんは神奈川大学の学生ということで、横浜国立大学以外の大学から参加して下さいったという点を私は感謝したいと思います。于さんの演題は「日本の職場のグローバル化に向けて」という大変大きな演題であって、取り扱うのに短時間では難しい問題であったかと思いますが、それをいろんな形から提示して下さいました。日本の、特にコンビニエンスストアなどは今や外国人の援助なしには成り立たないような格好になっていまして、日本の職場における外国人の比率が増大しているの言うまでもないことであります。これは人口減少、あるいは高齢化、人手不足の現状からすれば、押し留めることが出来ない趨勢だと思います。そうだとすれば非常に沢山の外国人を抱えた日本の職場がどのようにグローバル化してゆくか、外国人の就業比率が高まれば日本の職場は好むと好まざるとにかかわらずグローバル化せざるを得ない訳ですね。じゃそれはどうしたらいいかというのが于さんの提示した問題であって、日本の職場で外国人の比率が高まればグローバル化したと言えるのかどうか、ことはそれほど単純ではないと、こういうふうに言っているわけですね。それではどういう風にしてグローバル化を進めるのがいいかというのを于さんの意見としては、日本の文化を外国人にもっともっと教える、そして外国人が日本文化への理解を深めてゆく、これがグローバル化への一つの道ではないかと、こういう風にいらっしゃる訳です。私は外国人としての于さんが日本の職場のグローバル化を論じるという点からこういう方向からのアプローチをするというのもやむを得ないのではないかと思います。これからも外国人の方と日本の職場のグローバル化に向けて議論を深めてゆく必要があるのではないかと私は痛感致しました。

アブダラ シャアバン ヤスミンさんは日本語を始めてからまだ日が浅いというのに非常な決意で今日参加して下さいたことに感謝します。先ほど日本語の先生も心配して見に来られました。日本に来るキッカケというのが「犬夜叉」というアニメを見たことであるというんですね。いろんな留学生に聞いてみると、日本に関心を持ったキッカケがマンガであるとかアニメであるっていうのが非常に多いですね。若い世代が今どういうものに関心をもっているかということをお我々高齢者も常にアンテナを張り巡らして、知ることが必要ではないかと痛感しました。

更にヤスミンさんが言われたのは、日本に来る大きな動機というのは、古代の魂を感じたかったということです。じゃ実際にいま日本に来て古代の魂を感じられましたかというのを聞いてみたいのですが、もしそうお聞きしたら答えはどうなるのか、私は若干ながら期待と現実のずれというものを感じておられるのかなというふうに思います。日本に来たらあっちこっちに忍者がいると思ったというようなことを言う外国人がいましたけれども、なかなか現実を理解するということは難しいなあという感じがします。

それからヤスミンさん、富士山に登って感動した話をしておられましたが、これは非常に尤もで、富士

山は日本の誇りでもあり、いまや世界遺産になっている訳ですから。ただこの世界遺産を自然遺産として捉えるのではなくて崇拜の対象であるという文化遺産であるということが富士山の特殊性ではないかと思います。ヤスミンさんも富士山に登って、ご来光を拝んで非常に感動したと言っておられました。やはり富士山に登って富士山から見るご来光の神秘的な力というものは国を問わずどの人をも感動させるのかなということ、ヤスミンさんの話を聞きながら私も感じた次第です。

那 超群さんはやはり大学院でこれから学ぶわけですが、めでたく入学試験に合格して本格的な大学院生としての研究生生活が日本で始まるわけです。その生活が是非実り多いものであることを願っております。那さんが言ってくださったのは、我々RKKの関係者にとっては有難いことで、日本での留学生活でRKKがとても役立っているというお話しであって、これからも言葉だけでなく文化など広い範囲にわたって理解を深めてゆきたいと、こういうことを言っているわけで、那さんがRKKを高く評価して下さっていることに改めて、RKKの皆さんを代表して私も感謝いたします。是非、那さん、これからもRKKの活動のことを周りの留学生の方に沢山宣伝して頂きたいと思います。

マヘシュ コドートさんは自分の故郷のことを話してくださいました。南インドのコーチというところの出身だそうです。コドートさんが言っておられたように、コーチとうところは日本人には確かに知られていないですね。私も初めて聞いた名前です。

コドートさんは非常に豊かな経歴を持っておられる。スコットランドでも4年も仕事をした経験があるというふうに非常に豊かな経歴、バックグラウンドをもっている方です。そしてその専門は安全工学ということで工場の事故などに対応する、いろんな諸問題を研究しておられるという非常に大事な専門だろうと思うのです。

コドートさんは鎌倉が好きであるということをおられました。そして気に入ったのは新幹線、これは事故を起こさない確かに素晴らしい交通機関ですね。コドートさんが言っているように確かに値段は高いですが。今もうDr.コースの3年ということで、ほぼ研究生生活も終わりに近づいていると思いますけれども、今後どのような人生を送られるのか、コドートさんなんかは世界のどこでも十分活躍できる資質をもっておられると思いますけれども、是非、日本の社会にも少しは貢献して頂けると有難いと思いました。

それでは丁度11時半になりました。どうも皆さん有難うございました。

以上

## 私たちは：

留学生が留学を終了したとき、振り返って、日本に来てよかったと回想してもらえるよう、できる範囲で留学生を支援します。このことにより、親日家が増えることを期待します。

## 私たちのモットーは：

みんなで  
少しずつ会の  
運営に参加しながら  
留学生がハッピーになるよう  
できる範囲で  
楽しくやることです。

## **NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)**

Ryugakusei to Katariiau Kai (RKK)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace

Friendship Association for International Students

and Japanese Volunteers